

## 直接目的補語位置に置かれた *quand* 節の働き — *aimer* の場合 —

山本 香理

### 0. はじめに

本稿の目的は、以下の例に示すような、動詞 *aimer* の直接目的補語位置に置かれた *quand* 節の機能を明らかにすることである。

(1) *J'aime bien quand tu me parles...* (A. Gavalda, 2004, *Ensemble c'est tout*)

従来、このような *quand* 節について以下の点が指摘されてきた：

- 1) *aimer*, *voir*, *remarquer* といった特定の動詞が従え、*quand* 節はこれらの動詞の直接目的補語である<sup>(1)</sup>。
- 2) *quand* 節は *que* 節と競合関係にある<sup>(2)</sup>。
- 3) *quand* 節は話し言葉における *le moment où* 節の縮約である<sup>(3)</sup>。
- 4) (1) は *je t'aime bien toi quand tu me parles* の *te-toi* のゼロ化 (*réalisation « zéro »*) による発話である。

いずれの指摘も部分的な記述に留まり、*quand* 節の機能について網羅的に記述したものではない。そこで本研究では、使用実態の観察<sup>(4)</sup>とインフォーマント調査<sup>(5)</sup>の結果に基づき、従来の記述で不十分な点を補い、問題点を指摘しつつ、*quand* 節の機能についてより詳細な記述を目指す。山本 (2011 予定) で述べるように、我々も従来の指摘に倣い *quand* 節を *aimer* の直接目的補語であると考え、以下では、上で挙げた 2)–4) について検討する。第1章で、*quand* 節と *que* 節の使い分けを明らかにする。次に、第2章で *quand* 節が *le moment où* 節の縮約であるかについて検討する。最後に、第3章では、(1) が *te-toi* のゼロ化による発話であるという仮説を取り上げ、この仮説の妥当性を検証する。

1. *quand* 節と *que* 節の使い分け

従来の研究の中で、*quand* 節と *que* 節が等価であると指摘されることがある。しかし、山本 (2011 予定) で指摘するように、*quand* 節を用いる場合は、*aimer* の主語や時制そして *quand* 節内で言及できる事態のタイプについて制約が認められる。さらに、以下で示すように *quand* 節か *que* 節かの選択によって伝わる内容が異なる。例えば、インフォーマントによると、両形式が競合関係にある (2) において、*quand* 節を用いる場合は、対象となる事態が具体的な一場面 (*moment précis*) であり、発話者はそうした一場面が好きであるといった評価を示しているようである。一方、*que* 節を用いる場合は対象事態に対する一般的な評価を示しているとインフォーマントは答えた。

(2) a. *Je ne sors plus guère, mais j'aime quand on me promène dans mon quartier.*

(*Le Progrès*, 25/4/2009)

b. *Je ne sors plus guère, mais j'aime qu'on me promène dans mon quartier.*

対象となる事態が「具体的な一場面」とはどういうことだろうか。以下では実例を考察し、*quand* 節と *que* 節の使い分けを明らかにする。

実例の観察から、*quand* 節は以下に示す2つの場合において用いられることが分かる：

**(a) 発話者がある場面に立ち会い、その場面について好悪の評価を示す場合。**

この場合、発話者が立ち会っている場面を *quand* 節で表現し、その場面について評価を *aimer* で示すという図式になる。例えば、(3) では、発話者が草が伸びた放題になっている草原を歩いており、その立ち会っている場面について好ましいという評価を与えている。同様に、(4) では「母親がうるさく付きまってくる」という場面に、(5) では「対話者が自分に話をしてくれる」という場面に立ち会い、その場面について好悪の評価を示している。

(3) *Elles marchent dans des herbes très hautes.*

Reinette: Attention ! Il y a des chardons là.

Mirabelle: J'aime bien *quand on laisse pousser les herbes comme ça* !

(E. Rohmer, 1986, *4 aventures de Reinette et Mirabelle*)

- (4) (ただいまのキスをちゃんとするように注意する母親に娘が)

Maman, tu sais que je n'aime pas *quand tu me colles comme ça*.

(K. Pancol, 2006, *Les Yeux jaunes des crocodiles*)

- (5) (相手が話をしているのを聞いていて)

J'aime bien *quand tu me parles*... J'ai l'impression de devenir plus intelligente...

(A. Gavalda, 2004, *Ensemble c'est tout*)

**(b) 話題にしている人物・事物の一局面をとりあげ、その一局面について好悪の評価を示す場合。**

この場合、話題にしている人物・事物の一局面を *quand* 節で表現し、その評価を *aimer* で示すという図式になる。例えば、(6) では対話者である父親の「綺麗な格好をしているとき」という一局面を、(7) では Gary と男性一般の「気持ちが自分から離れていくとき」、あるいは「自分にうるさく付きまとって来るとき」という一局面を取り出し、その一局面が好きか嫌いかという評価を示している。

- (6) (失業中の父親がジョギングウェアで学校へ迎えに来て娘が)

Moi, j'aime *quand tu es beau, avec une belle veste, une belle chemise et une cravate*. Ne viens plus jamais me chercher à l'école habillé en survêtement.

(K. Pancol, 2006, *Les Yeux jaunes des crocodiles*)

- (7) D'accord, ce que j'aime chez Gary, parmi beaucoup d'autres choses, c'est son indépendance et le fait qu'il marche tranquille vers son destin, mais je n'aime pas *quand il m'échappe*. Je n'aime pas *quand les hommes m'échappent*. Et j'aime *quand ils me collent*. (K. Pancol, 2008, *La Valse lente des tortues*)

そして、事物を話題にしている (8), (9) についても同様のことが言える。自分の仕事について「良くできたとき」や彼女の試合について「彼女が勝つ場合」といった一局面を取り出し、それらの一局面が好ましいという評価を与えている。

(8) Le problème, c'est que j'adore mon travail et j'aime *quand il est bien fait*.

(Ouest France, 10/8/2009)

(9) Si j'aime son jeu ? Disons que j'aime *quand elle gagne*. Le tennis, c'est d'abord un sport où l'on gagne. (*Libération*, 29/5/2009)

以上、どのような場合に *quand* 節を用いるかを考察した。発話者が実際に立ち会っている場面や話題にしている人物・事物の一局面について好悪の評価を示す場合に *quand* 節を用いる。そのことから、インフォーマントは *quand* 節を選択する際には「具体的な一場面」といった印象を持つと考えられる。

最後に、*quand* 節を *que* 節に置き換えるとどのような違いが生じるかを見ておこう。

上で指摘したように、当該事態を具体的な一局面として提示する場合は *quand* 節を用いる。一方、*que* 節を用いる場合は、当該事態を恒常的なものとして提示する。例えば、上で挙げた (3) では、*quand* 節を用いることで、発話者は実際に立ち会っている場面に対して好ましい評価を示している。一方、*que* 節で置き換えると、「草が伸びたい放題であること」が恒常的な事態として提示され、その事態について好ましいと評価していることが伝わる。

(3') J'aime bien *qu'on laisse pousser les herbes comme ça* !

さらに、(10) では、*que* 節の置き換えにより一種の「命令」といった表現効果が生じる。これは、「母親が強気であること」が今後とも継続することが好ましいと評価していることを示すことで、一種の「命令」といった語用論的効果が生じるのである。

(10) (パリ郊外に住む親子の会話。母親の強気な発言を受けて娘が)

— Je te promets, chérie, *quand j'aurai gagné assez d'argent*, on ira habiter Paris.

*Hortense lâcha le coton et lança ses bras autour du cou de sa mère.*

— a. Oh, maman, ma petite maman chérie ! J'aime *quand tu es comme ça* !

(K. Pancol, 2006, *Les Yeux jaunes des crocodiles*)

b. Oh, maman, ma petite maman chérie ! J'aime *que tu sois comme ça* !

2. *le moment où* 節の縮約

従来, *quand* 節は, 話し言葉においての *le moment où* 節の縮約であると指摘されることがあった. ところが, *le moment où* による言い換えが不可能である場合がある. 例えば (11) では, ある画家の一連の作品について話題にしており, 彼の「彼が妻を描いていた時期」を評価対象として取り出している. この例では *quand* 節は, 画家の一時期の作品を指すメトニミー的な表現として用いられている. そのため *le moment où* ではなく *la période où* を用いて言い換えるのが適切である.

- (11) a. J'avais déjà vu certains de ses tableaux dans des musées, chez moi. J'aime *quand il peint sa femme*. (*Midi Libre*, 12/3/2009)  
 b. \*J'aime *le moment où il peint sa femme*.  
 c. <sup>ok</sup>J'aime *la période où il peint sa femme*.

さらに, 時間表現による言い換えが不適切である場合もある. 例えば, (12) では映画の題材を話題にしている. そして, 「映画が我々の日常について扱う場合」といった一局面が評価対象になっている. そして, (13) ではワインの醸造法を話題にしている. この例の評価対象は「ワインが冷却状態に置かれた」といった過去の出来事ではなく, 「ワインが冷却状態に置かれたことがある場合」といった一局面であるため, *le moment où* による言い換えは不適切である.

- (12) a. J'aime *quand le cinéma parle de nos vies*. (*Le Temps*, 16/12/2009)  
 b. \*J'aime *le moment où le cinéma parle de nos vies*.  
 (13) a. Chez Frapin, nous ne commençons à distiller qu'au 1<sup>er</sup> décembre. J'aime *quand les vins ont pris un coup de froid*. Cela donne de meilleurs résultats.  
 (*La Charente Libre*, 21/4/2009)  
 b. \*J'aime *le moment où les vins ont pris un coup de froid*.

このように, *quand* 節は必ずしも *le moment où* で置き換えることはできず, 文脈によっては *l'époque où* などの時間表現が適当であることがある. さらに, 時間表現による言い換えが不適切である場合もある. 以上の点から, *quand* 節が *le moment où* 節の縮約であるという指摘は妥当ではない.

## 3. (代) 名詞句のゼロ化

Jeanjean (1984), Roubaud (2000) は (14a) は (14b) の *te-toi* のゼロ化 (*réalisation* « zéro ») が起こった発話である指摘している。

(14) a. *j'aime bien quand tu chantes.*

b. *je t'aime bien toi quand tu chantes* (Jeanjean 1984 : 143)

さらに、上の論考によると、(14b) の *quand* 節は *toi* の補語として機能し、*toi* と *quand* 節によって成される関係は *aimer* の結合価 (*valence*) を構成していると述べている。従来、そのような動詞句以外の要素の連続によって叙述がなされる場合、その要素の連続は *nexus* と呼ばれてきた<sup>6)</sup>。本章では、Jeanjean, Roubaud そして Benzitoun (2006) の記述に基づいて、まず、*quand* 節が *nexus* の第二の構成要素として機能することを示す。次に *aimer* が導く *quand* 節がそうした機能を果たすかについて検討する。そして、(14a) が (14b) の短縮された形式であるかを検証してみたい。

3.1. *nexus* の統語特性

以下では、*quand* 節が *neuxs* の第二の要素として機能し得ることを示す。そのために、動詞 *penser* を例に挙げつつ *nexus* の統語特性を考察する。

次の例では *quand* 節は *toi* と強く結びついており、その連続は *penser* の結合価を構成している：

(15) *je pense à toi quand tu étais petit* (Jeanjean 1984 : 133)

そして、この両者の結びつきは以下の統語特性によって明らかになる：

(a) *toi* と *quand* 節を等位することが難しい。

(16) a. ? *je pense à toi et quand tu étais petit.*

b. ? *je ne pense pas à toi mais quand tu étais petit.* (Jeanjean 1984 : 134)

(b) *quand* 節は *toi* と切り離すことができない。

*quand* 節を *nexus* の構成要素として解釈するためには、*toi* と *quand* 節は近接している必要がある。そのことから、*quand* 節を単独で前置することや焦点位置に置

くことはできない。

(17) a. \**quand tu étais petit je pense à toi* (Benzitoun 2006 :220)

b. ? *C'est quand tu étais petit que je pense à toi.* (*ibid.*)

c. <sup>ok</sup> *C'est à toi quand tu étais petit que je pense.*

(c) *quand* 節は疑問副詞 *quand* による疑問の対象にならない。

(18) *Quand est-ce que je pense à toi ? - \*Quand tu étais petit.* (*ibid.*)

(d) *toi* と *quand* 節の連続は *ça* でのみ受けることができる。

*nexus* は複数の要素の間に存在する関係を示すことから、*ça* による照応が適している。

(19) *je pense à ça.* (= *toi quand tu étais petit*)

Jeanjean, Roubaud は (20a) のような *toi* と *quand* 節が表示されている長い形式 (*forme longue*) と呼び、どちらか一方を表示する短い形式 (*forme courte*) と呼んでいる。

(20) a. *je pense à toi quand tu étais petit*

b. *je pense à quand tu étais petit*

c. *je pense à toi*

そして、短い形式の解釈はどちらの要素を表示するかに応じて異なると述べている。*quand* 節を表示する (20b) については、*quand* 以下の解釈は文脈に応じて « à tous ceux qui étaient près de toi quand tu... » や « à cette époque quand tu... » のように解釈される。一方、(20c) では *toi* についてそうした解釈はなされない。

### 3.2. *aimer* の場合

Blanche-Benveniste *et alii* (1990), Jeanjean (1984) は、*aimer* は *nexus* の第2の構成要素として *quand* 節をとることができる<sup>(7)</sup> と指摘している。このとき、< (代) 名詞句 + *quand* 節 > は *ça* で置き換えられる。

(21) a. *j'aime bien Pierre quand il sourit* (Blanche-Benveniste *et alii* 1990 : 108)

b. *j'aime le café quand il est bien chaud.* (Jeanjean 1983 : 132)

そして、本研究で考察の対象とする (22c) は *te-toi* がゼロ化されたものであると Jeanjean は述べている。

(22) a. *je t'aime bien toi quand tu chantes*

b. *je t'aime bien quand tu chantes* (Jeanjean 1984 : 143)

c. *j'aime bien quand tu chantes*

しかしこの考え方には問題がある。

まず、「短い形式」を「長い形式」に変えることが不可能な場合があるからである。事実、今回使用したコーパスにおいて *te-toi* を含んだ (22a) のような形式をとる発話は認められなかった。また、インフォーマントによると (22a) は不自然な発話であるという指摘もあった。そして、実際に *te-toi* を付加した場合も不自然であるとの回答が得られた：

(23) a. *J'aime quand tu racontes des histoires.*

b. *??Je t'aime toi quand tu racontes des histoires.*

c. <sup>ok</sup> *Je t'aime quand tu racontes des histoires.*<sup>(8)</sup>

さらに、*nexus* の第二の構成要素である *quand* 節と本研究で考察の対象とする *quand* 節は統語的に異なる振る舞いを見せることがある。確かに、*quand* 節の前置が難しい点や代名詞化する際は *ça* を用いる点、そして疑問副詞の *quand* の疑問の対象にならないといった点は共通している。しかし、焦点化に関しては異なる振る舞いを見せる。上で、*quand* 節が *nexus* の第二の要素として機能する場合は、単独で焦点位置に置くことが難しいことを見た。しかし、本研究で考察の対象とする *quand* 節に関しては疑似分裂文による *quand* 節単独の焦点化が可能である：

(24) *Moi, je n'aime pas quand Papa et Maman se disputent, mais ce que j'aime bien, c'est quand ils se réconcilient.* (Sempé / Gosciny, 1994, *Le Petit Nicolas*)

#### 4. おわりに

本稿では、*aimer* の直接目的語位置に置かれた *quand* 節の機能を考察した。

第1章では、*quand* 節と *que* 節の使い分けを明らかにした：



- 1) 当該事態を具体的な一局面として提示し、その事態についての評価を示す場合は *quand* 節を用いる。例えば、発話者がある場面に立ち会い、その場面について好悪の評価を示す場合、あるいは話題にしている人物・事物の一局面をとりあげ、その一局面について好悪の評価を示す場合に *quand* 節を用いる。
- 2) 当該事態を恒常的な事態として提示し、その事態について評価を示す場合は *que* 節を用いる。そして、コミュニケーション場面において、当該事態が恒常的に継続することが好ましいといった評価を示す *que* 節を選択することで、一種の「命令」といった語用論的効果が生じることがある。

次に第2章では、*quand* 節が話し言葉における *le moment où* 節の縮約ではないことを指摘した。*quand* 節は必ずしも *le moment où* で置き換えることはできず、文脈によっては *l'époque où* などの時間表現が適当である文脈もある。さらに、時間表現による言い換えが不適切である場合もある。

最後に第3章では、本研究で考察の対象とする発話は、名詞や代名詞のゼロ化が起こった発話であるという指摘を取り上げた。確かに *quand* 節は *nexus* の第二の要素を構成し、*aimer* は *nexus* の第二の構成要素として *quand* 節をとることができる。しかし、本稿で考察の対象とした *quand* 節を含んだ発話を(代)名詞句を表示する「長い形式」へ変換することが難しい点や、*nexus* の第二の構成要素として機能する *quand* 節とは統語的振る舞いが異なる点を踏まえると、この仮説は妥当ではない。

## 注

- (1) Chétrit (1976) を参照のこと。
- (2) Van de Velde (1998), Krazem (2007) が挙げられる。
- (3) C. Duneton は次のように述べている：
 

« J'aime quand tu souris » est une formule contractée, enfantine à l'origine, de « j'aime le moment où tu souris ». (*Le Figaro*, 21/5/2009)
- (4) 映画のシナリオ、演劇の脚本、小説、新聞記事、そして *Delic* (Description Linguistique Informatisée sur Corpus, プロヴァンス大学) の作成した会話コーパス *Corpus de référence du français parlé* を使用した。

- (5) プロヴァンス大学の学生 5 名から 15 名。以下に挙げる発話例のなかで出典を示していないものは、インフォーマントの協力を得て作成したもの。a, b のように示す発話例の場合は a がオリジナル。
- (6) Nous appellerons *nexus* l'unité syntaxique qui résulte d'une prédication assurée par une unité autre que le syntagme verbal. (Eriksson 1993 : 26)
- (7) *quand* 節の他に, *aimer* は *nexus* の第二の構成要素として関係代名詞節や前置詞句をとる例が認められた。やはりこれらの要素も前置不可または前置すると機能が変わってしまう。例えば, (iia) の *avec ton mouflet* は *nexus* の第二の要素を構成しており, 「随伴」といった価値を持つ。一方, 文頭に置いた場合は, 「原因」や「条件」といった価値を持つことになる。

(i) a. Je t'aime beaucoup *toi qui est (sic) déjà si lumineuse...*

(www.jaimetrop.com/index.php?date=200708)

b. \**Qui est déjà si lumineuse*, Je t'aime beaucoup toi...

(ii) a. Barry t'aime bien *avec ton mouflet*. (D. Cozette, 1991, *Mal de Mère*)

b. #*Avec ton mouflet*, Barry t'aime bien.

(=Barry t'aime parce que tu portes ton mouflet. Mais sans ton mouflet, il ne t'aime pas.)

- (8) 自然な発話であるとされた *clitique* のみを示した「長い形式」の *quand* 節は *nexus* の第二の要素を構成していない。事実, *quand* 節の前置は可能であり, *quand* 節を単独で焦点位置に置くこともできる。さらに, *quand* 節は疑問副詞 *quand* の疑問の対象になり得る。

(i) Je t'aime à la folie *quand tu es une gagnante* ! (K. Pancol, 2006, *Les Yeux jaunes des crocodiles*)

(ii) Oh, maman, *quand tu es une gagnante*, je t'aime à la folie.

(iii) Oh, maman, *c'est quand tu es une gagnante que* je t'aime à la folie.

(iv) Quand tu aimes ta maman ?

— Quand elle est gagnante.

以上の例の *quand* 節は *nexus* の第二の要素を構成するものではなく, 状況補語として機能している。

#### 主要参考文献

- BENZITOUN, C. (2006), *Le fonctionnement syntaxique des constructions en quand*, Thèse, Université de Provence.
- BLANCHE-BENVENISTE, C. (1990): *Le français parlé, Études grammaticales*, Paris, CNRS Édition.

- BLANCHE-BENVENISTE, C. *et alii* (1984), *Pronom et syntaxe. L'approche pronominale et son application au français*, SELAF.
- CHETRIT, J. (1976), *Syntaxe de la phrase complexe à subordonnée temporelle*, Paris, Klincksieck.
- ERIKSSON, O. (1993), *La Phrase française*, Acta Universitatis Gothoburgensis.
- JEANJEAN, C. (1983), « Qu'est-ce que c'est que "ça" ? », Etude syntaxique de "ça" sujet en français parlé : la construction "quand P + ça", *Recherches sur le français parlé*, 4, 117-151.  
— (1984), « J'aime quand tu souris », *Recherches sur le français parlé*, 6, 131-165.
- KRAZEM, M. (2007), « La connexion sémantique des mots qu- dans les interrogatives indirectes », in *Les mots en qu- du français*, *Lexique* 18, P. Le Goffic (éd), Presses Universitaires du Septentrion, 109-136.
- LEEMAN, D. (2002), *La phrase complexe : Les subordinations*, Bruxelles, De Boeck. Duculot.
- LE GOFFIC, P. (1993), *Grammaire de la Phrase Française*, Paris, Hachette.
- MULLER, C. (1996), *La subordination en français*. Paris, Armand Colin.
- ROUBEAU, M.-N. (2000), *Les constructions pseudo-clivées en français contemporain*, Paris, Honoré Champion.
- VAN DE VELDE, D. (1998), « Aimer, verbe intransitif », in *La transitivité*, Actes du colloque de Lille : *La transitivité*, novembre 1995, A. Rousseau (éd), Presses Universitaires du Septentrion, 441-469.
- YAMAMOTO, K. (2010), *Le fonctionnement de quand P dans la construction Verbe quand P*, Mémoire de Master 2, Université de Provence.
- 山本香理 (2011 予定), 「aimer の直接目的補語位置に置かれた quand 節の働き」, 『人文論究』 60-3, 関西学院大学人文学会.
- Trésor de la langue française*

(文学研究科研究員)